

**【授業の到達目標および概要】**

病理診断は疾病の最終診断的な側面があり、臨床診断を確定するのに利用される。また、病理診断は単に診断するのみでなく治療方針の決定や、裁判での重要資料としても大きな意味を持っている。病理診断の一部として臨床細胞学の役割は大きく、簡便でありながら時には病理組織診断を上回る診断率をあげることもある。また、臨床細胞学を学習するには病理組織学的な裏付けや種々の診断技術の習得が必要である。本講義では腫瘍細胞の良悪性・組織型などを細胞像から判定するのに必要な病理学的背景、標本作製法、Papanicolaou 染色による細胞像の特徴を学習し、さらに特異免疫染色や電子顕微鏡などの補助診断法を習得する。

**【授業計画】**

- ① 細胞診とは何か？ 病理学，臨床細胞学の歴史，意義，教育，資格制度.
- ② 細胞診検体の採取法，標本の作製法と精度管理法について.
- ③ 細胞の構造と機能，細胞診と組織診の違い，細胞の見方，診断法.
- ④ 子宮頸部細胞診：炎症性，異形成，上皮内癌，浸潤癌など.
- ⑤ 子宮体部細胞診：内膜の周期変化，過形成，腺癌，肉腫.
- ⑥ 卵巣腫瘍の細胞診：上皮性，性腺間質性，奇形腫群，非上皮性腫瘍.
- ⑦ 呼吸器の細胞診：肺癌（腺癌，扁平上皮癌，小細胞癌，大細胞癌）.
- ⑧ 消化器細胞診：肝胆膵，消化管腫瘍の細胞像．胆汁や膵液の細胞診.
- ⑨ 泌尿器系の細胞診：尿を中心とした尿路上皮腫瘍，前立腺癌，腎癌.
- ⑩ 甲状腺の細胞診：穿刺吸引細胞診の応用．各種甲状腺腫瘍の細胞像.
- ⑪ 神経系の細胞診：末梢神経腫瘍，脳腫瘍の細胞診．圧挫細胞診の応用.
- ⑫ 軟部腫瘍・リンパ節の細胞診：炎症性，腫瘍性変化，悪性リンパ腫の像.
- ⑬～⑮ まとめ

**【授業外学習】**

学習の準備、反省として、次回予定の授業内容を指定教科書の項目で予習し、また授業後は確認のため教科書で復習すること。

**【成績評価の方法・基準】**

授業の際に発表したり経験した内容，討論への参加，およびレポート提出により総合的に評価する。

**【教科書】**

水口國雄編著「細胞診—標本の作製から診断まで—」 診断と治療社 2003年

**【参考書】**

水口國雄編著「スタンダード細胞診テキスト」第3版 医歯薬出版 2007年